

老健施設の 口腔衛生等の管理について

林田舞子 [はやしだ・まいこ]

介護老人保健施設シンフォニー稲佐の森Ⅱ（長崎県）



はじめに

お口の困りごととはすぐに評価、すぐ対応！ 素早い口腔ケアで皆さんニコニコ。職員への相談はすぐ解決。誤嚥性肺炎とは無関係！これが、私が抱えている老健施設の歯科衛生士のイメージです。私にはまだまだほど遠く、毎日悩みながらたくさんのお口と向き合っています。

口腔ケアはお口をキレイに保つだけでなく、お口の機能維持・向上へつながります。だからこそおいしく食事ができ、楽しく笑い、それが認知症、心疾患、糖尿病等の全身疾患の予防につながるの、特に誤嚥性肺炎のリスクがある高齢者・要介護者に推奨されています。頭ではそうわかってはいるのですが…。

シンフォニー稲佐の森Ⅱは、社会福祉法人長崎厚生福祉団（長崎県内の4市町で14拠点、34事業所を運営）を母体とした、入所定員100名、通所定員80名の老健施設です。「世界新三大夜景」で有名な稲佐山の中腹に位置しています。

当施設は2021年度に強化型施設へ移行し、2023年度は超強化型施設への移行を目標にしています。年々、在宅復帰者も増え、短期間でも在宅復帰をしていただくことでご利用者やご家族に喜ばれています。そのために、入退所前後訪問、サービス担当者会議等で多職種が支援を行っています。ご利用者が家へ帰る際に喜ぶ顔を見られたときは、どの職員もうれしそうにしています。

在宅復帰へ向け、老健施設の歯科衛生士として私に何ができるのかが今後の課題です。何かつかめそうで、いまはまだつかめていません。

施設の口腔衛生管理体制

当施設では6年前から介護職員を対象に、嘱託の

歯科医師により口腔ケア指導を受ける「口腔ケアラウンド」を行い、これを軸に口腔衛生管理体制加算を算定。指導内容を共有、浸透させるために、多職種で「口腔ケア委員会」を毎月開催していました。

2021年度の介護報酬改定で口腔衛生管理体制加算が廃止されて基本サービスとなってからは、口腔衛生の管理を行いつつ、口腔ケア委員会をさらに発展させ、NST（栄養サポートチーム）委員会、ミールラウンドといった形で多方面から口腔ケアや口腔衛生管理体制の大切さを浸透させています。口腔衛生等の具体的取り組みに対しては解釈が難しいです。情報を集めながら、以前よりも口腔衛生等の管理の強化に努めています。

老健施設の歯科衛生士として

私は、5年前に「歯科衛生士として高齢者と関わりたい!!」という気持ちだけで入職しました。

初めに取り組んだのはすべてのご利用者の口腔内評価です。必要がある方に対して口腔衛生管理加算を算定し、ひたすら口腔ケアを実施する日々を送っていました。他職種の口腔ケアに対する考え方の違いに悩む日もありましたが、立場が違えば考え方が違うのも当然です。

そんなとき、職員の意識が変わったと感じる出来事がありました。ある胃ろうの方（Y様）の口腔ケアを担当した際、介入当初はお口の乾燥が著しく、強い口臭がありました。噛みしめもあり、口腔ケアが難しく、次の日にはまた大量の痰が口腔内にカピカピにこびりついていました。頻回の口腔ケアか、せめて口腔内の保湿をしたほうが良いと提案したのですが、誤嚥リスクやマンパワー不足により、他職種と意見がぶつかることもありました。

それでも、毎日口腔ケアを継続していくうちに、口